# 実践まとめシート(1年次)

研究グループ 中学部 手工芸班 実践グループメンバー 三橋、渡邊、西川、矢口、阿保

# 実践タイトル

『地域と関わる作業学習の実践

~創立50周年の記念品(こぎん刺しのマグネット)製作を通して~』

# I 問題と目的

OECD (2019) は、「教育とスキル未来 2030 プロジェクト」において、教育の中核的な概念として「エージェンシー」を提起し、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力 (the capacity to set a goal、reflect and act responsibly to effect change)」と定義している。

菊地によれば、「エージェンシーの意味するところは、従前から特別支援学校等で推進してきた地域協働活動等における多様な他者とかかわり「為すことによって学ぶ」取組の成果と重なると捉えられる。具体的には、「自分ごと」として心の動く豊かな活動に取り組む中で、「誰かのために役立ちたい」といった「ありたい」「なりたい」という願いをもち、実際の取組をとおして手応えや改善の必要性を感じ、振り返りにおける言語化や文字化、対話をとおして取組の意味付けや価値付けなどの大事なことへの気づきを得ていくというプロセスである。」と記載している(菊地,2024)。

今年度本校は創立 50 周年を迎える。そのため、中学部生徒全員が一つの目標に向かって協働して記念品を製作する活動を作業学習の単元として設定することで、エージェンシーの発揮に向けた土台作りができるのではないかと考えた。生徒が作った製品を地域の方々に配付する内容の「50 周年の記念品を作り隊」という単元を設定し、創立 50 周年の記念品をみんなで協力して 140 個製作することを全体の目標にして実践することとした。

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである、とされている(文部科学省、2018)。中学部では、小学部で積み上げてきた基礎的な能力を、働くことに関する学習の中で、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期である。将来の職業生活や社会自立に必要な事項を身に付け、作業班における目標達成や課題解決をとおして、やりがいや充実感を体感しながら主体的に作業に取り組めるように段階的な指導をしていくことが重要である。

本校中学部の作業学習は、農工班と手工芸班に分かれて活動している。手工芸班では、これまで地域の伝統工芸であるこぎん刺しを作業として行い、刺した布を活用してバッグなどの製品に加工してきた。しかし、製品完成までの製作工程が長く、「何を作っているのか」が生徒にとって分かりにくいことや、一人で作業に取り組むことが多く、友達と協力する場面が少ないこと、こぎん刺しの歴史や模様などの知識を調べたり、実際の店で販売されている製品を見たりする学習の機会を設定していなかったことが課題としてあった。

そこで、こぎん刺しの基本的な技術が身についた生徒が既習の学習を生かせることや、作業工程が短く反復して同じ工程を行えること、生徒の実態に合わせて工程を細分化して分担し、協力する場面を設定できること、布や糸の色、模様など多様なバリエーションがあること、近くにこぎん刺しの製品を扱っている場所があることを踏まえ、地域の伝統工芸であるこぎん刺しのマグネットを記念品として製作することとした。

以上のことから、本実践では、生徒が自分ごととして作業学習の集団の目的に向かいながら、地域という 資源を活用して自分自身の目標を実現させていくことを通して、エージェンシーの発揮に向けた土台を作 るための学習活動の在り方を検討することを目的とする。

# Ⅱ 実践方法

# 1 対象生徒について

対象生徒は、中学部1年6名、2年5名、3年5名の計16名である。中・軽度の知的障害と他の障害を併せ有し、自閉スペクトラム症が6名、自閉症が4名、注意欠陥多動性障害3名、ダウン症候群が3名、発達性協調運動障害1名、構音障害及び両側性唇顎口蓋裂1名である。生徒の実態は様々で、個々の発達段階や障害特性に応じた指導、支援を行う必要がある。

# 2 実施の手続き

# (1) 指導計画

図1のように、令和6年9月~令和7年2月の計12時間で実践した。本実践の指導計画を表1に示す。 なお、生徒が伝統工芸であるこぎん刺しにより興味・関心をもてるように、3回目の授業で地域の人材資源を活用した学習としてこぎん研究所の見学を取り入れた。地域(こぎん研究所)での学びが作業学習の中でどのように広がっていくのかを検証するため、普段からこぎん刺しを行っている手工芸班の生徒のみが見学した。

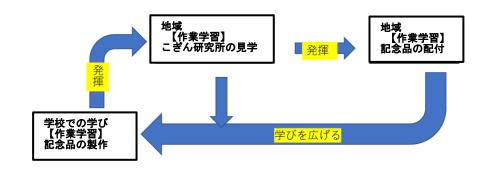


図1 実践イメージ ~エージェンシーの発揮に向けた学びのサイクル~

口	時数	学習内容
1	1	オリエンテーション ~やってみよう、はじめよう~
2	1	記念品をつくろう 1
3	3	こぎん研究所を見学しよう
4	1	記念品をつくろう 2
5	1	記念品をつくろう 3
6	1	記念品をつくろう 4
7	1	140 個、完成させよう ~フィナーレ~
8	0.5	記念品を式典来場者に配付しよう
9	0.5	弘前大学の留学生にプレゼントしよう
10	2	アンケート結果を知ろう ~再チャレンジ~
総時数	12	

表 1 指導計画

# (2) 検証方法について

以下、5つの方法で検証を行った。

① 作業開始前アンケート(図2、図3)

作業開始前にアンケートを行い「今の作業のやる気はどれくらいですか?」「今日は、なんのために作業をしますか?」の質問に対して、選択肢から回答を選ぶようにし、意欲や動機付けとなっていることを調査した。



図2 作業のやる気!シート(表面)



図3 作業のやる気!シート(裏面)

- ②実習日誌(目標設定、振り返り、次時の目標設定)
- ③こぎん研究所での質問内容、帰校後の振り返りシート、インタビュービデオ
- ④記念品を配付した相手からのアンケート (記念品に2次元コードを付けて集約)
- ⑤生徒間の会話や気付きについての教師の記録、ビデオ記録

# Ⅲ 指導の実際

# 1. 地域資源を活用した学習(表1:3時間目)

有限会社弘前こぎん研究所では、津軽の伝統工芸「津軽こぎん刺し」の普及と製作、販売を行っている。 本校では今まで、作業学習の中でこぎん刺しを取り入れた製品作りを行ってきたが、こぎん刺しの歴史に触れたり、作業工程の見学をしたりする学習活動は行ったことがなかった。そのため、実際に見学に行くことで、「津軽こぎん刺し」の文化に触れる機会を作りたいと考えた。

事前に質問を考える場面を設定すると、「1日に何個作っているのか」、「製品を作るときに気を付けることは何か」など、日々の活動と結び付いた質問を考える生徒がいた。当日は、講師としてこぎん研究所の職員から歴史について教わったり、質問に答えていただいたりした。作業場では、出荷に向けて模様を刺し終えた布を製品に加工したり、アイロンをかけたりする過程を見学した。

帰校後の事後学習では、分かったことやこれから気を付けたいことについて、ワークシートにまとめて発表したり、教師からのインタビューに答えたりした。

50 周年記念式典終了後、こぎん研究所宛てに、見学での学びをどう生かすことができたかを記した礼状と記念品のマグネットを送った。





図4 こぎん研究所の見学



# 2. 記念品を製作する学習

授業の展開(50分)を下記に記した。

学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入(5分)本時の活動内容、	自らの役割を理解する。	
<ul><li>○挨拶</li><li>○作業日誌記入</li><li>・日程を確認し、活動内容と自分の役割を理解する。</li><li>・作業日誌に本時の目標を記入する。</li></ul>	・白板を使い、日程、役割、グループを視覚的に提示する。 ・目標や目標達成のために具体的にどう取り組むかを明確にするため、教師とやりとり	・日程と目標についてを理解し 学習の意欲が高まっている。
○アンケート 屈服 (25 八) チュルの休問 レ校	をする。	- <del></del>
	力して、自分の役割を果たそうと 	
<ul><li>○作業A 材料の準備(20分)</li><li>袋を開けるマグネットを開ける</li><li>マグネットを開ける</li><li>3名</li></ul>	<ul><li>紙を切る</li><li>こぎんを刺す</li><li>4名</li><li>7名</li></ul>	・自分の役割を理解し、役割を遂行することができている。
○片づけ、		
次の作業の準備 (5 分) (5 分) (10 分) マグネットケースに布 袋に紙を入れるを入れるを入れる。 ふたをしめる	<ul> <li>1チーム 4 人の 4 班に分かれ、工程を 4 つに分けて梱包作業を行う。</li> <li>検品と報告の場面を作る。</li> <li>袋にマグネットを入れ 財をする、シールを貼る ※検品・報告</li> </ul>	<ul><li>・次の作業内容や活動場所が分かり、自分から移動する。</li><li>・自分の役割を理解し、友達と協力して遂行することができている。</li></ul>
まとめ (10 分) 活動を振り返り 〇日誌記入 ・日誌に自己評価を記入する。	<b>、達成感をもつ。</b> ・教師とのやりとりをとおして	・よくがんばったこと、次の時
・教師と一緒に振り返る。	具体的に振り返り、達成感が 感じられるようにする。	間がんばることなどを振り 返り、記入することができて いる。

# (1) チームで協力する場面の設定

作業Bの梱包では、生徒同士がやりとりをし、協力して作業を行うことをねらい、1 チーム 4 人の 4 チームで活動する場面を設定した。1 回目の授業では、工程をライン化し、工程順に座席を一直線にして実施した(図 5)。しかし、長机の端同士に座る生徒がお互いにどのような作業をしているのか分かりにくい状況だったことから、教師間で話し合い、よりお互いの作業の様子を見合える位置にするために L字型の座席(図 6)に変更した。用具置き場はどの班からも取りに行きやすい位置に変更し、仕事内容ごとに置き場所を 2 か所に分けて、動線を整理した。

また、教師の役割を明確にし、生徒 16 名に対して教師が 4 名入り、4 つのチーム毎に教師を配置して授業を行った。教師はチームの生徒に対して検品や作業時の報告への対応をした。作業日誌の目標や振り返りを確認する際は、「なぜそう思ったのか」などを、生徒と対話をすることで、生徒の気持ちの内面や質的変化を読み取るようした。実践にあたっては、生徒について共通理解を図りながら進めるために、授業後に教師間で生徒やチームの様子、次時の改善点などについて話し合いを行った。

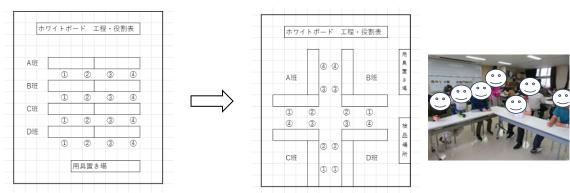


図 5 授業改善前の作業室内の配置

図 6 授業改善後の作業室内の配置

# (2) 支援ツールの工夫

教師の支援がなくても自分から進んで仕事に取り組んだり、また、目標達成に向けた意欲付けになったりするよう、支援ツール(表 2)を工夫した。

表 2 授業で使用した支援ツール

# (3) 教師との対話を通したやりとり

毎時間、授業の最初と最後の時間に、4名の教師は、担当するチームの生徒全員と対話を行い、本人の意欲や思いを聞き取り(あるいは本人の言葉や行動を言語化し)記録し、教師同士で生徒の変容を確認しながら実践を進めた。

# 3. 記念品を配付する学習

本校の50周年記念式典が令和6年12月7日に行われるということから、当日、これまで製作してきた記念品(こぎん刺しマグネット)を直接、来賓37名に手渡す場面を設定した。直接渡すことで、自分

たちが製作した記念品を手に取る相手の反応や様子を生徒が感じられる機会(生徒が直接フィードバックを得られる場面)となることを意図したためである。なお、同日、本校児童生徒の保護者にも記念品を配付したが、時間の都合上、直接手渡すことは難しく、学級担任から配付した。

来賓の控室前に、これまで製作した記念品をウォールポケットに入れて掲示し、目の前を通る来賓一人一人に説明し、好きなデザインのこぎん刺しマグネットを選んでもらい、それを手渡しすることとした。また、記念品の外装には二次元コードを印刷し、記念品の仕上がりに対する意見をアンケート(Google フォームを利用)で集約できるようにした。

また、本校では年に一度、弘前大学の留学生との交流が行われている(様々な国からの留学生数名が各学部で 50 分程度やりとりを行う)が、この交流を、こぎん研究所で学んだことを海外の方に伝える機会、さらに自分たちで製作したこぎん刺しマグネットについて留学生からの意見や感想を得られる機会と捉え、前述のこぎん刺しマグネットと、本校の手工芸班のことを紹介するパンフレットを合わせて留学生にプレゼントする活動を設定した。

# Ⅳ 結果

# 1. 地域資源を活用した学習

こぎん研究所の見学後の事後学習では、様々な反応があった。製品の仕上がりを理解した上で「学校の製品はコスパがよい」と考えたり、「こぎん刺しを日本中世界中に発信したい」という意欲的な発言があったりした。専門的な知識や高い技術を見聞した体験をしたことで、地域の伝統工芸であるこぎん刺しを誇りに思う様子もみられた。家庭で、「歴史について聞いた」「難しい模様に挑戦したくなった」と家族へ話した生徒もいた。縫い目がふっくらとしている製品がよいことを理解した生徒は、見学後の作業において、そのことを意識し、糸を引っ張る力を調整するなどして刺していた。

# 2. 記念品を製作する学習

# (1) チームで協力する場面の設定

座席をL字型に変更したことで、お互いの作業の様子が見える配置となり、相手の状況が分かり必要な材料を材料置場へ取りに行き、その材料を必要な仲間に配ったり、マグネットの表裏を間違って袋に入れている仲間にやり方を教えたりするなど、より生徒自身がチームの一員として意識をもつことにつながった。また、「チームで連携してたくさんの数を作りたい」と作業日誌の目標に記入する生徒がもいた。

# (2) 支援ツールの工夫

支援ツールにより、製品に求められる基準が明確に視覚化されたことや、こまめに検品場面を設定(台紙を切る場面では、10枚終える毎に検品・報告をする)したことで、製品の仕上がりの気付きが早くなり、繰り返し同じ作業を行うことで、改善に向けて対処法を考えて実践するなど、意識して取り組むようになった。また、目標の達成が近づくにつれ、人に贈るものだから丁寧に作りたいという気持ちが芽生え、渡す相手を意識した言動も多くみられるようになった。

### (3) 教師との対話を通したやりとり

教師と生徒が作業日誌の目標設定、振り返り時に繰り返し対話をしたことで、自分の気持ちや考えを表出することができる生徒が増えた。その記録を別紙 1~9 に示す。

# 3. 記念品を配付する学習

50周年記念式典当日、来賓に記念品(こぎん刺しマグネット)を直接配付した。来賓の控室前に記念品を配るコーナーを設置し、①来賓へのあいさつ、②好きなデザインのこぎん刺しを選択してもらい、それを手渡す、③記念品の仕上がりについてのアンケートの協力依頼までを、生徒が役割分担しあって活動した。

当初は緊張した声で来賓に説明していたが、来賓の笑顔や、「どうもありがとう」「素敵な製品だね」という言葉で、生徒も生き生きとした様子で記念品の配付に取り組むことができた。20 分ほどで、20 数名程の来賓へ応対をすることができ、自分たちが製作した記念品を、目の前の相手(来賓)に手渡し、笑顔や感謝の言葉、製品に関する称賛等をその場で実感できる貴重な学習場面となった。活動を終えた生徒達からは笑顔が見られ、「喜んでもらえた」、「〇〇校長先生に、自分が作ったこぎんを選んでもらえた」という感想があった。

式典当日は時間の関係上、記念品を手渡しする対象は来賓に限られていたが、本校教職員に対しては「記念品予約チケット」を配付し、①それぞれの教職員(30 数名)に、気に入ったデザインのこぎん刺しマグネットを選択してもらう、②記念品を掲示しているウォールポケットのそれぞれの場所に予約チケットを貼り付けてもらう、③後日、生徒が該当の記念品を教職員に手渡す、という活動を設定した。生徒が直接、記念品を渡すことで、教職員からのお礼の言葉や、記念品についての感想を得られる機会となった。

3人程のグループを作り、教職員とやりとりをしながら記念品を手渡した。普段から関わりのある教職員だけではなく、他学部の教職員とも一連のやりとりを行ったため、最初は緊張が見られたが、記念品を直接渡すことで、教職員からお礼を言われるなど、生徒が喜びや成就感、達成感を得られる機会となった(図7)。生徒が記念品の配付活動を振り返り「自分でマグネットを渡すことができて、嬉しかったです。」、「今日は、マグネットを渡しに行ったけど、一人一人の先生の名前がついたマグネットを見たら、人によって違ったので、みんな違ってみんないいというのを強く感じた。」といった感想を話していた。









図7 完成したこぎんマグネットの配付

また、先述のように、50周年式典から約一か月後、弘前大学の留学生との交流活動の中で、こぎん刺しマグネットをプレゼントした。プレゼントに際して、こぎん研究所で学んだ、こぎん刺しの歴史やその意義、本校で製作・販売している手工芸班のこぎん製品について簡単な英語で説明したパンフレットを作り、マグネットと一緒に手渡すこととした。パンフレットを作る活動では、3か月程前に訪れたこぎん研究所で学んだことを、生徒が改めて振り返る学習機会となった。









図8 弘前大学留学生へのこぎんマグネットプレゼント

当日の留学生との交流では、生徒が自分たちで作ったこぎんマグネットをテーブルに並べ、留学生に好みのマグネットを選択してもらうこととした。留学生たちが一つ一つのこぎんの柄を見比べたり、にこやかな表情でお礼の言葉を話してくれたりと、目の前で留学生たちが喜ぶ姿を見ることができた(図8)。また、本校中学部の生徒達は外国の人とコミュニケーションをとる機会が少なく、年に一度の留学生との交流を楽しみにしている生徒が多い。そのため、こぎん刺しマグネットのプレゼントをとおして双方向のやりとりに楽しさや喜びを感じている様子が見られた。

以上のように、50周年式典記念品として140個製作したこぎん刺しマグネットを、来賓、本校児童生

徒の保護者、本校教職員、弘前大学の留学生へと配付してきた。記念品の仕上がりに対する意見を 42 件 (Google フォームを利用)回収し、その結果を以下に示す。

質問項目	←満足度1段階	満足度2段階	満足度3段階	満足度4段階	満足度 5 段階→
色合いについて	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4. 8%)	40 (95. 2%)
全体のデザインについて	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2. 4%)	41 (97. 6%)
こぎんの柄について	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4. 8%)	40 (95. 2%)
作りの丁寧さについて	0 (0%)	1 (2. 4%)	0 (0%)	3 (7. 1%)	38 (90. 5%)
ラッピングについて	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4. 8%)	40 (95. 2%)

表3 記念品の仕上がりに対するアンケート結果

	25 点以下	26~50 点	51~75 点	76~85 点	86~99 点	100 点
製品は100点中、何点ですか?	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4. 8%)	5 (11. 9%)	35 (83. 3%)

### こぎん刺しマグネットを受け取った方々のアンケート記述 (一部抜粋)

- ・その他の商品で、箸を入れられる長めの巾着袋や、ボタンで留めたり、紐で巻き留めるタイプのペンケースなど出来ないでしょうか。
- ・記念品の作成お疲れ様でした。とても気に入りました。大切に使わせていただきます。
- ・生徒が作ったとは思えないカッコよさでした。 糸のよれがあるなど、まだまだ不慣れな部分は見えますが、それを差し引いてもとても 素晴らしい記念品だと思いました。また、バリエーションがたくさんあるのが、選ぶ楽しさがあってよかったです。これからも自分た ちの暮らす地域のことを学びながら、学んだことを、こういった作品などを通してたくさんの人たちに伝えていってほしいと思いま す。
- ・保健実習の際のプレゼントとしていただきました。素敵なこぎん刺しのプレゼントありがとうございます!大切に使わせていただきます!!
- ・最高です。弘前市周辺の道の駅や百貨店などで見かけたことがありません。今後、ライバル出現の可能性は否めませんが、かなりの自信をもってもよいと思います。家庭や職場等で必ず使うものなので、通年の商品としてバッチリだと思います。色や模様も豊富で選ぶ楽しさもあると思いました。
- ・今回いただいたマグネットは、普通にお店に売っている商品と変わりない品質(デザインや包装の美しさ)だと感じました。丁寧に作業されたのだろうと、様子が目に浮かびます。
- とても心温まる作品をいただきましてありがとうございます
- ・こぎん刺しは津軽の特産物の中でも一番好きなので、記念品でいただけてとても嬉しいです。どうもありがとうございます。
- ・時間をかけ、丁寧に作成されたようですね。ありがとうございます。
- ・シンプルでおしゃれな仕上がりになっていたと思います。好きなデザインを選べたので良かったです

アンケート回答者が本校児童生徒の関係者ということもあり、おおむね今回の記念品に対して肯定的な意見が多かった。ただし、アンケート結果のポジティブな側面のみを生徒へのフィードバックとするのではなく、よりよい製品開発、製作技術の向上のためのヒントとなるような意見を生徒に問題提起した。アンケート結果で注目したのは、アンケート結果の網掛け部分で「作りの丁寧さ」の満足度が2段階(1人)、4段階の得点となっている箇所(3人)、「ラッピングについて」の満足度が4段階(2人)の箇所である。こぎん刺しの糸のよれや、糸を刺す際の力加減については、以前から、出来上がりに大きく影響し、改善する余地があることをこぎん研究所からアドバイスをいただいており、教師間でも認識されていた。また、ラッピングについても、こぎんの糸くずがまれに包装フィルムに混入していたり、こぎん刺しマグネットの透明なプラスチック部分に汚れがついてしまったり、封をする際のシールがわずかに曲がってしまったりということが、教師の検品時に見受けられていた。

アンケートの回答結果は、2度に分けて生徒に提示をした。1度目は、数値と文章で、こぎん刺しの作りの丁寧さ(糸のよれ)に関するアンケート結果を生徒に提示した。記述式アンケートの『生徒が作ったとは思えないカッコよさでした。糸のよれがあるなど、まだまだ不慣れな部分は見えますが、それを差し引いてもとても素晴らしい記念品だと思いました。』の部分である。実際に糸のよれがあったこぎん刺しマグネットと、糸よれがなく形の整っているこぎん刺しマグネットの両方を見比べながら、こぎん研究所

からのアドバイスも提示した。こぎん刺しの製作を担当した生徒数名に対して、ファシリテート役として 教師を交えた話合いを試みたところ、教師の想定を超えて活発に、生徒が仲間と改善策や、気を付ける点 を挙げることができた。「力を入れすぎないで刺す」、「ふっくら(仕上がるように)刺す」、「ゆっくり針 を刺す」、「ずれないように、見本を見ながらゆっくり」というのが生徒の言葉の抜粋である。なお、下に 記述式アンケートの結果を抜粋する。

2度目のアンケート結果を提示する際には、こぎん刺しマグネット製作に関わった生徒全員が、より自分のこととして情報を認識できるように、数値や文字での提示だけではなく、アンケートに回答した本校他学部の数名の教師に協力を依頼し、「記念品の良かった点」「ここをこうすればもっと良くなる点」など教師が感想を述べる様子を録画し、生徒へ提示した。

### ~教師からのフィードバック (一部抜粋) ~

# 良かった点

- ・色、模様の多彩さ
- どこにも売っていないオリジナリティ
- •配色
- ・デザイン (かわいい、かっこいい)
- ・マグネット裏のデザイン (FTK50th)
- ・初めてこぎん作業製品をいただきました

# こうするともっと良くなる点(頑張ってほしい点)

- ・販売の機会を!
- 新商品はどうか?ネック、ショルダーストラップ
- 客からの希望(オーダー)を取ってみては?
- 模様のバリエーションを増やす
- ・糸のふんわり感が足りず、もったいない。もっとふんわり刺してみては?
- ・糸をもっとカラフル、ポップに
- もっと大きな製品を
- ・糸のより、もっと整えられるはず

### ~フィードバックを受けた生徒からの言葉~

- キーホルダーのこぎんがあればいいなと思いました。
- マグネット以外でもキーホルダーでもいいかも。
- ・○○先生がよろこんでいた。がんばる。
- ・○○先生うれしいです。
- ・いろんな人に良いこぎん刺しをいっぱい刺したい。
- こぎんのキーホルダー、僕も欲しいなと思った。
- もっとたくさんこぎんマグネットを作りたい。
- ・みんなに喜んでもらえてうれしかったです。意見とか きいてそう思いました。
- ・みんなをよろこばせてうれしかったです。
- ・世界中にこぎんブームをまきおこしたい。
- サイズを大きくしてみる。
- デザインがかっこいい!
- ・先生方がよろこんで、うれしかったです。
- ・弘前駅や市役所とか、もっと人が来るところで売りたい。









図9 本校教職員からのビデオメッセージを受けての話し合い活動

教師からのアンケートの言葉をもとに、「よりよい製品にするためにどのようにすればいいか」を生徒が担当している作業Aの4つのグループごと(台紙を切る、マグネットケースの分解、シールにスタンプを押す、こぎんを刺す)、また作業B(梱包の4グループ)に、教師のファシリテートを交えて改善策を話し合った(図9)。グループによっては、言語活動の苦手さから、改善策を言語化することが難しい生徒もいたが、教師のファシリテートもあり、生徒それぞれが考えたアイデアを簡単な言葉で出し合うことができた。その後、アンケート結果からのフィードバックを受けて自分たちで目標と具体的な取組を考え、改善に向けて、本年度最後のこぎんマグネット製作に取り組んだ。生徒が、製品の課題を認識し、自分たちでどのように気を付けていくか(=自身による目標設定)を考えた結果を次に示す。

# 作業A 材料の準備について

こぎん刺しグループ

課題	どのように (生徒の言葉)
・糸がよれている	<ul><li>→作りなおす</li><li>→丁寧に作る</li><li>→新しい糸にする</li></ul>
・模様をふっくら刺し てほしい	→力加減に気を付ける →ゆっくりやる →ひっぱりすぎない →やさしく刺す
<ul><li>もっと色々な模様が 見たい</li></ul>	<ul><li>→新しい模様を考える</li><li>→大きいマグネットを作る</li></ul>

台紙切りグループ

課題	どのように (生徒の言葉)
<ul><li>紙の仕上がりが曲がっている</li></ul>	→よく見て切る →線をよく見る
<ul><li>・台紙にギザギザの部 分がある</li></ul>	→丁寧に切る →はさみでチョキチョキ、で はなく、はさみの刃を大き く使って一度に切り取る

マグネット(ケース開け)グループ

課題	どのように (生徒の言葉)
・ケースに傷がついて いた	→やさしく開ける →1度で開ける (ドライバーで)

・はんこグループ

課題	どのように (生徒の言葉)
・文字がかすれている	→かすれないように強く押 す →インク (スタンプ) を全体 につける
・文字が曲がっている	→曲がらないように、 枠からはみ出ないように 確認して押す

# 作業B 梱包について

課題	どのように (生徒の言葉)
・ごみが混入している	→確認する →布を入れるときにごみ取 りをする(テープでごみ取 りの行程を入れる)
・指紋が付いてている	→手袋、指サックを使う →ケースをしっかり拭く →眼鏡拭きで拭く

課題	どのように (生徒の言葉)
・シールがずれている	→コツは触ってから丁寧に 線に合わせて貼る →フィルムの真ん中を意識 する →しっかり確認 →まっすぐ貼り付ける

# V 考察と課題

# 1. エージェンシーの発揮と学びのひろがり

実践を通じて、生徒たちが地域資源を活用しながら目標達成に向けて主体的に取り組んでいく姿勢が見られた。特に、こぎん研究所の見学や記念品製作の過程で、生徒が「もっと模様をふっくら刺したい」「お客さんに喜んでもらいたい」といった意欲をもつようになった点は、エージェンシー(自分で目標を立て行動する力)の発揮に繋がっていると思われる。学びが自己の成長や他者への影響を意識した形で進んでいることが確認でき、エージェンシーを育むための重要な要素として、「本物に触れる機会」や「実際に地域と関わること」が大きな効果をもっていることが考察された。

# 2. 生徒同士の協働による、個々のエージェンシー発揮の促進

個々のエージェンシーは、生徒たちがチームで協力し合いながら記念品を製作する中で、より深まっていく過程が観察された。これは、協働的な学習活動により、チームワークやコミュニケーションを通じてお互いの意見を尊重し、協力して目標を達成する力が育まれたためであると考えられる。特に、友達同士優しい言葉掛けをするなど、自己の言動を調整する場面が多く見られたことは、他者との協力によって生

徒間の関係がより良く、より深いものへと変化していることを示唆している。

# 3. 教師と生徒の相互作用

教師があらかじめ設定した役割や目標に生徒が取り組む学習を設定したが、今後は生徒自身の意見をより反映させることで、さらに「自分ごと」としての意識を高めることができると思われる。教師と生徒の間で行われた振り返りや対話は、生徒が自分の行動に対する気付きを深める機会となり、学びを意味あるものとして捉えることになった。教師主導での活動から、生徒主導の活動にすることで、自己調整や自己管理能力をさらに高めることができると考えられる。

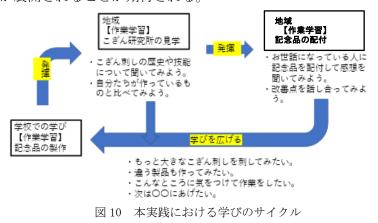
# 4. 地域との連携の重要性

地域資源を活用した点は、この実践の大きな特徴であり、学びの広がりに貢献する要素となった。地域 と関わることで、単に知識を得るだけでなく、実際の社会や文化に触れる機会を生徒に与えることができ た。地域との連携は、生徒が自分の学びを社会的な文脈の中で意味付ける手助けとなり、また、地域社会 への貢献意識を芽生えさせることにもなる。今後、さらに多様な地域の方と関わりを深めることで、学び の幅が広がり、より多様な視点や学びが生まれることが期待される。

# 5. 課題と今後の展望

今後の課題としては、生徒の自主性をさらに高める方法が挙げられる。現状では、教師主導で教師が決めた仕事内容や役割を生徒が行っているが、生徒自身が目標設定や活動内容に対して主体的に関与する機会を増やすことで、さらに深い学びを促すことができると思われる。また、地域の人々との交流をさらに広げ、多様な価値観や視点を取り入れることが今後の学びに深みを与えることになると考察される。

本実践は、生徒が自己の目標を地域資源を通じて実現する学びのサイクル(図 10)を通して、エージェンシーの発揮の土台を構築するという目的に対して、一定の成果を確認することができたと思われる。今後は、生徒主導の活動や地域とのさらなる連携を進めることで、より豊かな学びと深いエージェンシーの発揮に繋がる学習活動が展開されることが期待される。



# Ⅵ 参考・引用文献

- ・菊地一文: 共生社会を形成する一人一人のウェルビーイングの向上を目指す上で求められること. 特別支援教育研究, 4, 2024
- ・文部科学省:特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部).開隆堂、2018
- ・弘前こぎん研究所: 津軽こぎん刺し 技法と図案集. 2013
- ・千葉県立特別支援学校流山高等学園:これからの変化ある社会を生き抜く資質・能力を育成する教育課程の在り方の考察及びカリキュラム開発.研究紀要第27号,2024

生徒A	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日
やる気	10	75	50	75	75	75	75	50
コメント	なし(と書く)	なし (と書く)	なし (と書く)	なし (と書く)	なし(と書く)	なし (と書く)	なし (と書く)	なし (と書く)
①友達と協力								
②お客さんのため				0_	0	0	0	
③目標達成のため								0
④いい商品を作る		0						
⑤高等部に行く				目標としてい	いる完成数が近づいて	てきたためか、こぎん研究	門所で何らかの	
⑥先生に褒められる				刺激を受けた	ためか、毎回○を作	付けるようになった。		【何のために作業する?】
⑦自分の将来					T			最終回で「お客さんのため
⑧時間割にある	0		0	【こぎん研究所見学】		【コメントの変容】		「目標達成のため」に変化
⑨仕事が楽しい				研究所での学びをふり	返って	客観的な事実だけではな		
⑩弘前のこぎん刺し				のコメント 		動や気持ちを言語化する	る場面が増えてくる	
作業日誌から(本人と	対話しながら記入)				•			
		かみがまっすぐになる	こぎんがいっぱい	ごみがついているかよ				ごみがあったらちゃん
		ように入れることがで	あった。昔からある	く見ること。	ら、じかんかかった	こ。 るのをがんばった。 <mark>お</mark>	れる。マグネット5こ	とふくこと
		きた。	んだなとわかった。			た そいとみんなおくれ		
よくできたこと	なし(と書く)				かった。		だ。昨日のこりがあっ	
						ないから。	たから、のこりからや ればすぐできる。	
							れはすくできる。	
		こぎんをいっぱいさす	こぎんをさす時に糸	こぎんを 2 こいじょう	こぎんを 1 こいじょ	う こぎんをもうちょっと	こぎんをいっぱいつく	力を入れないで刺す
		のをがんばる!!	がおかしくなったり	がんばる。	がんばる。	はやく作るようにがん	ること!!	
V	1 1 (1 + 1)							
次頑張りたいこと	なし (と書く)		するのを気を付けた			ばる!!		

【自分の思いの表出が増えてきた】

- ・教師のところへすぐに日誌を持ってくる
- ・自分の気持ちや考えをスラスラ話す。
- ・具体的に目標の設定や振り返りができるようになる。…目標個数に近付くにつれて意欲が高まり、目標の中にグループとしての完成個数を具体的に設定するようになる。

【周囲に目を向け、気を配り、自分の仕事を調整する】

- ・隣の席の子にゴミが付いていることを直接伝えるようになる。
- ・隣の席の子に手渡すとき、その子が取りやすい位置を考えて置くようになる。
- ・自分の仕事のところで作業が滞っていることに気付き、解消するために今とりかかっている作業を中断し別の作業へ取り組む。
- ・グループ内の作業の流れをよく見るようになる。担当する作業内容が一番多いが、遅れを とらないように周りを見ながら素早く取り組む。
- ・グループ全体の様子を見ながら、複数ある自分の仕事の取り組み順を変更し、みんなを待 たせないようにしていた。

生徒B	9	月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日
やる気		65	65	100	75	100	75	100
コメント	久しぶりだけど	`やれる	いつもどおり、やれる	ぜんりょくで、やり	とことんやる!?	マックスでやります	さいぜんをつくす	マックスの本気モード
コメント	だけやる		だけやる	まーす('_')				でやるフォ
①友達と協力	0		0	0	0	0	0	○ \ <b>体で</b>
②お客さんのため	0		0	0	0	0	0	○ 本人
③目標達成のため	0		0	0	0	0	0	○ Eチ があ
④いい商品を作る	0		0	0	0	0	0	○ 載し
⑤高等部に行く								
⑥先生に褒められる	0		0	0	0	0	0	0
⑦自分の将来			ん研究所を見学した後、	0	0	0	0	0
⑧時間割にある		○を作	付ける項目が増えた。	7 0	0	0		
⑨仕事が楽しい			0	0	0	0	0	0
⑩弘前のこぎん刺し	0		0	0	0	0	0	0
作業日誌から								
			マグネット入れで、み	自分たちの学校で売っ	チームの連携がすごく	今日はやり方をかえた	マグネット入れの目標	今日は全部で、商品を
			んなと4個作れた。	ている商品より店の方	よかったこと。	けど10個できたから	は10個だったけど、	17個作れた。
L/-++-1				がすごく細かくて、い		このやり方になれて12	時間のわりに8個もで	
よくできたこと				ろんな商品があったり	友達の作業を確認し ながら「横の作業」	個作りたい。	きたからよかった。	
				してびっくりしまし	を認知していること			
				た。	が分かる記載			
			みんなで次は6個作り	ミスをしないように集	今日が10個だから次	必ず12個作る	次は12個作る	この調子でたくさん、
次頑張りたいこと			たい。	中できるように頑張り	は12個作りたい。			こぎんざしを作れるよ
				たいです。				うに集中していきた
								v.
【伝統工芸品への思い】					【活動に対する意欲や自・授業外の時間でも「俺	目信】 随明日もこぎん頑張ります	> 10.	成感の重要性】
【伝統工芸品への思い】 「すごいやつはバックが9000円!!学校で売っ					・授業外の時間でも「俺		> 10.	<u> </u>

ているやつはコスパよき!」「初めて行ったけど、 色々学べたし、何よりたくさんのこぎんがあって面 白かった。」「ご案内してくれた須藤さんにお礼の 挨拶をしていい気持ちになりました。」と話してい た。帰りのタクシーの中でも「本物はすごい!」 「すぐこぎん刺しがやりたい!」と話していた。

- (省略) わかったから!」と話していた(3・4日)
- ・意欲も能力も高い生徒だが、チーム内の他生徒のペースを尊 重して取り組む様子が見られた。
- →「連携」という言葉
- ・実態としてメンタル面での課題がある生徒だが、この活動を きっかけにして、気持ちを切り替えることができたときがあっ
- ・役割分担をすることで責任も分散されるので、大きなプレッ シャーにならなかったのかもしれない。

・全体のふり返りで完成品が目 標数に届いたことを伝えると、 ガッツポーズをして「目標達成 できたな一」「楽しかった な一」と話し、達成感を味わっ ている様子だった。

生徒C	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日
やる気	100	100	100	100	100	75	100	50
コメント								
①友達と協力	0	0		Q	0	0		
②お客さんのため							0	0
③目標達成のため				【集団での作業】			・140個の完成	日。渡
④いい商品を作る					々と作業をするタイ	プだが、左右の生徒	す相手を意識して	
⑤高等部に行く						周囲に合わせようと	ける。	
⑥先生に褒められる			0	する姿がみられた	0			
⑦自分の将来		・こぎん研究所						
⑧時間割にある		見学の日に〇を		【チームでの協働	-			
⑨仕事が楽しい	0	付ける。						マットを袋に入れる際に マットを入れた袋を「ど
⑩弘前のこぎん刺し			0		の担当の友達に渡す		とう巨していた。マフイ	りいを入れる数を「こ
作業日誌から								
よくできたこと	よくみてしごと	あいさつ	自分もがんばろうと	よくみてしごと	よくみてしごと	へんじ	よくみてしごと	よくみてしごと
選択肢から教員がきき			思ったの項目に○をつ					
とり			ける					
\_ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1\\ 1				マグネットを開け	マグネットを開け	マグネットを開ける	マグネットを開ける	がんばった
次がんばりたいこと				る仕事をやりたい	る仕事をやりたい	仕事をやりたいと指	仕事をやりたいと指	
仕事内容の写真を指さ				と指さす	と指さす	さす	さす	
す								

# 【作業への意欲】

・友達が隣でやっているマグネットを開ける仕事に関心を示し、 やってみたいと作業日誌の写真を指差しながら伝えていた。

生徒D	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日	
やる気	50	50	50	50	50	50	50	50	
コメント								【何のたと	めに作業を
①友達と協力								する?】	
②お客さんのため	[4	作業の振り返り】	【こぎん研究所見		【作	業の様子】		単元最終四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	
③目標達成のため	₹	グネットの布入れ	学】			を切る作業、友		「先生に変	_
④いい商品を作る		業、教師の言葉を	見学が刺激になった ようで、自分の言葉			<ul><li>「たて」「よ ー を切る係で分業</li></ul>		ため」と変	变化
		解して「四角に ―― ったり入れた」と	で感想を述べる。			ことへのコメン			
⑥先生に褒められる		メント			F	_		<b>&gt;</b> 0	
⑦自分の将来									
⑧時間割にある	0	0	0	0	0	0	0	<u> </u>	
9仕事が楽しい									
⑩弘前のこぎん刺し									
作業日誌から	<del>- !</del>	<b>\</b>	1	!	<u> </u>	!	-		
	かみをきるのができま	マグネットの布入れが	かばんと財布をみて、	かみをきること	かみをたてにき	かみをきることがで	シールがんばった。	布を入れると、ふたを	
	した	んばった、四角にぴっ	すごいなと思った。	ができました。	る仕事ができま	きました。	むずかしい→ない	しめることができまし	
よくできたこと		<mark>たり</mark> 入れた。		難しい→ない	した。		たのしい→シール	<i>t</i> c。	
				楽しい→はさみ			-		ジティブな
		布を入れるしごとをが	・ 先生に報告する。刺す	ふうをとじるの	シールをはるこ	ふうをとじるのがで		ント	】 しい作業と
	【作業の様子】	んばりたいです。	時に難しそうです。	をがんばりまし					ルはり、
次がんばりたいこと	台紙を切る作業、 ある程度、丁寧に作	70100 7720 0 78	右、左、右、左をよく		す。	2 % 0 / 0 %		3	
	業を進めるが、やや		見て刺す。	1/20	, ,			これ	までで初
	粗雑さが見られた								
		【作業の様子】		の様子】		F業の様子】	【作業の様子】	1,114 > -	
		マグネットケ-	-フにこ   烟匀作		布を   トラル	_ リノナし) そさ	浴髪とやいという	が押える	
		マグネットケー ぎんを入れる(		業、仕事の変更( →シールはり、封		-ルはり、封 §とやりとりして作業を	後輩とやりとりを 後輩の行動をうる		

生徒E	9月12日	9月24日 9月26日		10月3日 10月4日		10月8日	10月9日	2月4日
やる気	100	100	100			100	100	100
		こぎんざしをていねい				ていねいにこぎんを	ていねいに作業する	ていねいにつくる
コメント		にゆっくりさすことを				する		
		がんばります						
①友達と協力	0	0	0			0	0	0
②お客さんのため		0	0			0	0	
③目標達成のため		0	0	欠席	欠席	0	0	
④いい商品を作る	0	0	0	人师	人师	0	0	0
⑤高等部に行く		1 E W 1 1 1/1						
⑥先生に褒められる	こきん研究所 ○を付ける項	を見学した後、	0			0	0	ポジティブなコメントが
⑦自分の将来	OE1117 8%	1/3·1/2/20	0			0	0	見られるようになる
⑧時間割にある		0	0			0	0	
⑨仕事が楽しい	0	0	0			0	0	
⑩弘前のこぎん刺し			0			0	0	0
作業日誌から								
		ふくろにシールを貼る	昔からあるこぎん刺し			こぎんざしをていね	シールをまっすぐに	大きな布にこぎんを刺
よくできたこと		ことができました.	がすごいと思った。江			いにさすことができ	はることができまし	すことが楽しかったで
よくできたこと			戸時代からある。着物			ました。	た。全部できて嬉し	す。
			を見せてもらった。				い。	
		ふくろに紙を入れる仕	ていねいに間違えずに			ふうをとじるときに	フタをしめる仕事を	こぎん刺しのハンカチ
		事をがんばりたいで	やりたい。こぎん研究			まっすぐはることが	やりたいです。	を作ってみたいです。
		す。	所のはまっすぐになっ			難しかったので頑張		
次がんばりたいこと			ていてきれいだった。			ります。		
			色がきれいだった。青					
			に刺していたのがよ					
	1		かった。					
				L				1

### 【仲間と協働した作業】

・梱包作業の際、隣にいる後輩の生 徒がやり方を間違っている時には、 優しい口調で声をかけ、やり方を見 本を見せて教えていた。

### 【伝統工芸品への思い】

・こぎん研究所から帰校後、「今日や ばかった。すごく自分でがんばれた」 とコメント。成就感があったようだ。 模様の細かさに驚いていた。

# 【記念品の品質を意識】

・授業の中で、**ていねいに**仕事をすると話す場面が増えた。こぎん研究所で見た製品に影響を受け、こぎん刺しの糸をふっくら刺したいと話すようになり、技能の向上が見られた。

# 【記念品の品質を意識】

・前回指摘された、梱包の際にシールをまっすぐ貼ることを今回の目標にしていた。シールが曲がらないように手で袋をしっかりと押さえながら貼るように工夫していた。

 生徒F	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日
アンケートから								
やる気	50	50	50	50	50	50	50	50
何のために作業します	か?							
①友達と協力								
②お客さんのため								0
③目標達成のため								
④いい商品を作る	0	0	0	0	0	0	0	アンケート、こぎん
⑤高等部に行く								研究所からのフィー
⑥先生に褒められる								ドバックを受けて、
⑦自分の将来								こぎん刺しの糸をふ んわりとさせるよう
⑧時間割にある			研究所を見学した後、					になっていた。
⑨仕事が楽しい		Oをf	けるようになった。					
⑩弘前のこぎん刺し				0	0	0	0	
作業日誌から								V
	いい商品ができまし	ふうをとじるとき、	こぎん刺しのビデオを見まし	ゴミがはいらないよう	こぎんの模様がずれな	しっかり品質をチェッ	かんせいしました	マグネットをいれるこ
よくできたこと	た。	シールをまっすぐ貼る	た。歴史のビデオでした。江	に封を閉じる。	いように、回数に気を	クしました。		۷
4/69/22		のをがんばった。	戸時代からまつられていまし		付けてやった。			
			た。いろいろわかりました。					
	また同じようにがんば	布を切ること。	模様がずれないようにする	こぎんを 2 こ以上さす	ナイロン袋に入れると	はんこをおす	60周年にむけて作業	むずかしいもように挑
	ります。			こと。	き、品質をチェックし		します	戦したい
					て(ゴミが入っている			【今年度の活動を
次頑張りたいこと					か入っていないか)が			メント (動画より ・こぎんざしを、
					んばります!!ゴミが			めることに成功し
				4	入っていると品質わる			(本人の言葉より
			1	<u>/</u>	い。ダメだ。			
	*		【伝統工芸品/			【こぎんの完成品を増		レープ完成品の数を増
		【伝統工芸品へいまでは、こぎん研究所		ぎん刺しがんばる		・「報告をがんばる」。 る。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
		家庭で「歴史に		I IAI	統工芸品への思い】 弘前の有名なこぎんだ	っ。 終わったらすぐ報告		常に戻るまでの時間が なった。
		た」「難しい模			がんばる」と独り言の	個数が増えるよと伝え	たところ、こ (10	0/9はグループ完成品
		ンジしたくなっ? ていた。	き」と話し		こ話す。	ぎんが完成すると自分		団に増えた)
		( 01/20				告に来るようになった。 に戻るまでの時間が短		
						に新しいこぎん刺しに		
						た。		

生徒G	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日			
やる気	100	100	100	100	100	100	100	100			
				マグネットあけをがん	マグネットあけをがん			最後の記念品をつくる			
コメント				ばります。	ばります。			のをがんばります。			
①友達と協力											
②お客さんのため	0	0	0	0	0	0	0				
③目標達成のため						【目標の深化】					
④いい商品を作る							- 「自信の法化」 ・作業目標について、これまでは単に製品の個数				
⑤高等部に行く							-スを開ける→「やさしく				
⑥先生に褒められる	0	0		0		台紙を封入する	o→「かみをやさしくいれ っていた。(単元最終回)	にる」と、製品の質を意識し			
⑦自分の将来						70 IN CIDACO	7 C V 17 C 8 ( T 7 D D X 1 C T )				
⑧時間割にある	0	0	0	0	0	0	0	0			
⑨仕事が楽しい											
⑩弘前のこぎん刺し											
作業日誌から				_							
	マグネットをあける。	マグネットをあける。	バックがいいと思っ	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。			
よくできたこと			た。(選択肢から選ん			キズつけないようにし					
			だ)			た。					
	マグネットをあける。	マグネットをあける。	ゆっくりやる	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。	マグネットをあける。			
					キズをつけないように						
次がんばりたいこと					がんばる。キズつくと						
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					つかえなくなるから。						

【こぎん研究所での様子】

・当てられると「どんなこぎんを作っていますか」と質問をすることができ、しっかりメモをとっていた。感想にお財布、バック、小物を見ました。楽しかったです。と記入していた。

### 【指サック導入】

・手汗で道具やケースをすべらせ傷を つけることがなくなり、作業効率も向 上した。

#### 【理由の説明】

傷をつけないようにマグネットのふた を開ける理由を説明した。 【後輩の存在】

自分と同じ作業をしている下学年の生 徒がいることで、手本になろうとする 意志がみられた。

### 【周囲に目を向け、相手を意識した行動をとる】

- ・隣の席の子(次に渡す人)が手に取りやすい位置に、袋に入れたマグネットを置くようになる。その子が気付いていない様子であれば、さらに近付けて置いたり、手を振って意識を自分に向けさせたりして、伝えようとするようになった。
- ・グループの素材が無くなったときには、素材置き場の近くにいた教師に「〇〇ください」と一言伝えてからもらうようになった。この依頼は、状況を見て様々な教師に臨機応変に依頼できるようになった。

生徒H	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4日	10月8日	10月9日	2月4日
やる気	75	75	75	75	75	75	75	75
コメント				スタンプをおして、 すごくたのしかっ た。	仕事はハンコをがん ばってたのしかっ た。	ぼくはハンコをがん ばります。すごい。		ぼくは、はんことは たおりでしごとをして 楽しかった。
①友達と協力	0	0	0	0	0	0	0	0
②お客さんのため			0	0		0	0	
③目標達成のため		0		0	0	0	0	
④いい商品を作る								
⑤高等部に行く		0						
⑥先生に褒められる								
⑦自分の将来								
⑧時間割にある					0			0
⑨仕事が楽しい								
⑩弘前のこぎん刺し			0					
作業日誌から		•						
よくできたこと		はんこ	バックを見て、かわい いと思った。	シールにはんこ	あいさつ、しずかに しごと、じかんをま もる	はんこがんばります。	シールにはんこをおす。	はんこ
次がんばりたいこと			こぎん研究所にあった 機織り機に注目してい た。「大きいはたおり すごいなぁ。やってみ たいなぁ」と帰りのタ クシーの中で発言して いた。		シールをはること。	マグネットをいれる。	マグネットをたのしくやる。	じゅぎょうにおくれない (この日、授業に遅れて、入室に停滞が見られていた)

### 【梱包作業】

・日誌に記述は見られないが、見通しを持って取り組んでいた。最初の素材を持ってくる活動と完成品をケースに入れる活動に取り組み、素材の数が足りないことを次の活動の生徒に指摘されても、穏やかに対応できていた(チーム編成の妙)完成品をケースに入れる活動は、そのまま材料を持ってくる動線とするために途中から入れたが、柔軟に対応できていた。

### 【スタンプ押しのコツをつかむ】

- ・スタンプを押すときは「ギュー」と力を入れて押すようにアドバイスしたところ、前回までと比べて1回ずつ力を入れて押すようになり、結果としてエラーが減った。
- ・成果物を見て1枚ずつ合否を一緒に確認し、合格と不合格をその場で 分けて提示した。不合格の枚数が減っていき、とても喜んでいた。
- →「スタンプ押し作業が楽しい!」と以前よりも感じるようになったのではないかと推察される。
- ・10/4以降、自分から「ギュー」と声に出しながら押すようになった。

【スタンプをきれいに押したいと いう気持ちが芽生える】

・不合格と合格のスタンプを提示 しながら作業するようにしたこと で、インクがかすれたり文字が曲 がってしまったりしたときは、担 当教師のところへすぐに報告にく るようになった。

→合格、不合格の枚数を記録して いくことで、意欲につながったと 考えられる。

生徒H	9月12日	9月24日	9月26日	10月3日	10月4	1日	10月8日	10月	9日	2月4日
やる気	75	75	50	75	75		75 75		)	75
コメント	がんばります!	いいしょうひんを	ていねいにがんば	きれいにやる!	集中してと	りくむ	キレイな作品を作	しっぱいし	ないよ	しもんをつけない
		作る!	る。				る!	うにがんば	る。	ようにする。
①友達と協力		0	0	0	0		0	0	)	0
②お客さんのため	0	0	10	0	0		0	0	)	0
③目標達成のため	0						0			
④いい商品を作る	0	0		0	0		0	0	)	0
⑤高等部に行く		【こぎん研	 究所見学の様子】							
⑥先生に褒められる			ん刺しをやっています	すか」		【目標の				
⑦自分の将来			お客さんにいいこぎん	<mark>ん刺し</mark>			グネットに封入する台		【丁寧な	心作業】
⑧時間割にある		をめげるた	め」と答える。 				「スピード」から「T シフトする。教師の		台紙を切	
⑨仕事が楽しい							分の行動にフィードル		作業、コ	=
⑩弘前のこぎん刺し						せる。			維持され	ってきた
作業日誌から										
	ていねいにかみを	ずれないようにか	こぎん刺しは35	いいスピードで	し 集中しては	さみを	ふうをとじる時ず	かみがきれ	ないよ	しもんをつけずに
	きれた。	みを切れた。	0年前からあるこ	ごとができた。	切れた。		れないようにはれ	うにしんち	ょうに	できた。
			とがわかりまし				た。	きれた。		
よくできたこと			<mark>た</mark> 。すごいなと思							【動画のコメント】単元
4 \ C \ C \ C \ C \ C \ C \ C \ C \ C \			いました。自分が							えて 「楽」かった 不士 . 「t
			刺したこぎんを褒							「楽しかったです」「カ 「んの人にプレゼントで
			められて嬉しかっ							よかった」
			た。							
		ゆっくり	ずれないようによ	ていねいにいい	ス ふうをとじ	る時ず	あせらずていねい	きれいなこ	ぎんを	やることを一つず
		ていねい /	く見て頑張る。	ピードでやる。	れないよう	にしっ	にやる。	さす。		つやる。
次がんばりたいこと		にやる。			かり見る。					
[ごぎん研?	究所見学の様子】			失敗す			************************************			,

【こぎん研究所見学の様子】 上記の欄に○はついていないが、生徒はほめられることが 励みになるタイプであり、こぎん研究所の方に作品を見て もらえたことは有効だった。

ことができた。そのため、自分から反省点をいかそうとするこ とができたと考える。